

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	81	学校名	県立浜名高等学校	校長名	山崎 裕子
------	----	-----	----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた学力の向上	各教科における単元の目標や評価基準等が明確だと答える生徒85%以上。	答えた 生徒 93.1%	A	シラバスや授業での目標、評価基準の説明が改善され、昨年度から評価が向上した。来年度も一層の継続を勧める。
		授業は分かりやすく、教え方に工夫があると答える生徒85%以上。	答えた 生徒 90.4%	A	授業アンケートを学期ごとに見直し、アンケートに基づいた授業改善を行った結果、昨年度から評価が向上した。
		「授業で、生徒による主体的な活動を促す工夫をしている」教員 70%以上	答えた 教員 98.1%	A	生徒による主体的な活動に主眼に置いた授業改善意識が徹底されている。この意識を継続する取組を続ける。
		「他教員の授業を見学したり、情報交換等を通じて授業改善を行った」教員80%以上	答えた 教員 81.5%	A	授業見学週間の設定や年次研修等の研究授業の参観促進の取組の結果と思われる。100%を目指すため、更なる意識の啓発を推進する。
		到達度テストにおける各教科の正解率65%以上。	1年生 国語 69.3% 数学 74.6% 英語 76.2% 2年生 国語 60.7% 数学 50.2% 英語 53.4%	B	3教科の正答率は1年生 73.4% 2年生 54.9%であった。昨年度が1年生 69.7%、2年生 53.2%であり、昨年度に引き続き成績の向上がうかがえる。今後も引き続き、主体的に学習ができるようにしていく。
		「学習支援システム等を活用し、適切な課題の配信や学習習慣確立への助言を行った。」教員 70%以上	答えた 教員 66.7%	B	10月導入の校務・学習支援アプリC-Learningの機能理解が職員全体に浸透していないことが原因と思われる。機能活用の研修を定期的に行い、生徒の学習習慣確率に資する取組を継続する。
		大学入学共通テストの各教科平均得点率50%以上。	自己採点 国語 51.5% 数学 41.9% 英語 52.9% 地・公 57.1% 理科 50.3% (情報 49.6%)	B	令和8年度共通テストは、国語、数学、物理、リスニングを中心に昨年度よりも難化傾向であり、本校も同様の傾向が見られた。引き続き、出題傾向の変化にも対応できる指導を考えていく。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	キャリア教育の充実による進路意識の醸成と進路実現の支援	「未来創造プロジェクトや特別活動は自己の在り方や生き方を主体的に考え、将来の展望を深める機会となる。」と答える生徒70%以上	答えた 生徒 83.7%	A	今年度からの新規項目である。未来創造プロジェクト、特別活動の内容は、キャリア教育における柱として位置付けて毎年改善をしている。更なる達成状況の向上に努めていく。
		第3学年6月までに、すべての生徒が「未来創造企画書」を完成する。	完成した	A	進路課職員の指導の下、指導とスケジュール管理をした結果、全員が完成させることができた。
		進路に関する情報提供や指導助言は適切である」と答える生徒80%以上、保護者70%以上。	答えた 生徒 92.3% 保護者 65.7%	B	生徒の達成状況は上昇したが、保護者の達成状況は減少した。共通テストや私大入試が年々複雑化しており、保護者への説明が難しくなっていることが原因と思われる。保護者にも分かりやすい資料の作成や発信について研究をしていく。
		「自己の目標に向けた努力・挑戦を継続している」と答える生徒85%以上。	答えた 生徒 91.4%	A	昨年度から評価が向上した。進路や部活、校外活動等へのチャレンジを教職員が積極的に行った結果と思われる。今後もチャレンジ精神の育成のために、積極的な声掛けや自身のキャリア育成に資する校外企画等の情報提供を継続していく。
イ	探究的な学びの組織的な検討、及び具体的な実践プログラムの構築	探究活動プログラムの実践・改善・開発を継続する。	継続ができた。	A	探究室長を中心に、今年度からNPO団体のシツクリを使い、地域企業との協働による探究活動プログラムの実践・改善・開発をしている。
		「未来創造プロジェクト（総合的な探究の時間）」を通じて、課題発見力と解決能力が向上した」と答える生徒85%以上。	答えた 生徒 83.3%	B	今年度からの新規項目である。わずかに達成状況に及ばなかった。来年度以降の探究活動では、課題発見力・解決能力の向上に寄与する企画・改善を行っていく。
		「課題発見や課題解決を取り入れた活動を行った」と答える教員80%	答えた 教員 85.2%	A	授業や探究活動、特別活動において、課題発見や課題解決を取り入れる意識を高めることができた。次年度以降も、100%を目指し、職員の意識を啓発していく取組をしていく。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ		学校行事、生徒会・委員会活動及び部活動等に主体的に取り組んでいると答える生徒・保護者90%以上。	答えた 生徒 95.0% 保護者 88.9%	B	生徒の達成状況は向上したが、保護者の達成状況は下降した。各種活動の保護者や地域への広報・発信力が不足していると思われるので改善していく。
		「個人や部活動・委員会を通じて、地域行事やボランティア、国内外研修に1回以上参加した」生徒70%以上	答えた 生徒 61.8%	C	今年度からの新規項目である。部活動だけではなく、地域や社会に対する貢献活動、自己研鑽のための校外研修への参加を促したが、目標達成には及ばなかった。来年度は、さらなる声掛けや情報提供を行う。
		「図書館を通じた読書活動の推進が行われている」と答える生徒80%以上	答えた 生徒 79.2%	B	今年度からの新規項目である。わずかに目標達成に及ばなかったが、朝読書やビブリオバトル等の読書活動推進を行っており、今後も継続をしていく。来年度は、図書活動の更なる推進と情報発信を進める。
		1か月に1冊以上本を読む生徒の割合70%以上。	答えた 生徒 59.7%	C	昨年度から達成状況は約10%程度向上しているが目標達成には至らなかった。読書の啓発活動を来年度も継続する。
		「学習と部活動の両立ができている」と答える生徒80%以上	答えた 生徒 75.1%	B	今年度からの新規項目である。目標達成に至らなかった。来年度からは部活動の加入自由化を実施するとともに、部活動ガイドラインに沿った形での活動を徹底し、さらなる学習との両立を図る。
		地域貢献活動等に参加した部活動100%	参加した部活動 100%	A	全ての部活動が何らかの活動を行った。地域イベントへの参加、学校周辺の清掃活動、文化祭における地域住民との交流等を行った。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	安全・安心な教育環境の整備と、社会情勢に応じた生徒指導の充実による、自己肯定感・自立心・社会性の向上	「進んで気持ちの良い挨拶をしている」生徒 80%以上	答えた 生徒 95.0%	A	挨拶などの社会のマナーを意識して生活するような指導をしており、職員も積極的に挨拶を行っている。高い達成状況となっているため、今後も継続する。
		「ルールやマナーの意義について考え、主体的に行動できた」生徒 80%以上	答えた 生徒 97.4%	A	倫理や社会のマナーについて考えて生活するような指導をしており、高い達成率となっている。また、今年度も県高P連等から地域住民の救助等で善行表彰を2件4人が受けている。
		相互に円滑なコミュニケーションを図ろうとする姿勢・雰囲気がある。	あると回答 生徒 92.9%	A	挨拶活動や社会的マナーを心掛け、円滑なコミュニケーションに心がける姿勢・雰囲気を醸成する環境がある。今後もこの雰囲気を継続する取組をしていく。
		「人権や情報モラルの講座・授業を通じて、人権意識が向上した。」生徒 80%以上	答えた 生徒 93.4%	A	人権や情報モラルについては、全校集会、学年集会等でことあるごとに指導をしていることもあり高い達成率となった。特にSNSの使い方については、社会的にも問題となっているため、今後も継続して行っていく。
		受診が必要な生徒の治療率 85%以上。	12/26 時点 治療率 70.6%	B	昨年度よりも治療率は向上している。虫歯や耳鼻科の未受診者が多い傾向があるため、その部分を重点的に声掛けし、早期の受診を促していく。
		「先生方は私の良いところを認め、意欲や向上心が高まる言葉をかけてくれる」と答える生徒 90%以上	答えた 生徒 91.9%	A	目標達成となっているが、100%を目指し、人権や教育相談、不適切な指導防止の研修を進めていく。
		「校内に、悩みや不安を話せる人や機会・場所がある」と答える生徒 80%以上。	答えた 生徒 84.2%	A	教育相談室と養護教諭を中心に、悩み事や問題を抱えている生徒の傾聴を丁寧に行ってきた。また、SCとの連携も進めている。 一方で、教育相談室のオーバーフローが課題となっている。

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	安全・安心な教育環境の整備と、社会情勢に応じた生徒指導の充実による、自己肯定感・自立心・社会性の向上	学校内外の整備・美化は行き届いていると答える生徒・保護者 85%以上。	答えた 生徒 74.2% 保護者 81.4%	C	トイレの清掃不備、廊下、階段の綿ほこりの点が指摘されていた。学校全体の美化に対する啓発に努め、清掃活動の充実を図っていく。
		地震や暴風警報時の登校基準・行動を把握している生徒・保護者 80%以上。	答えた 生徒 81.0% 保護者 69.2%	B	生徒の把握率は昨年度より向上したが、保護者の把握率は減少した。HPや教室掲示により周知を行っているが、より分かりやすい情報伝達を考えていく。また、今年度から校務支援システムC-Learningの導入によって、緊急時のみならず平時でも保護者・生徒への連絡体制が容易にできる体制が構築された。
オ	地域との連携強化と広報活動の充実による、地域に開かれた学校運営の推進	生徒目線を取り入れた「学校紹介動画」の作成。	生徒たち自身が本校の特徴を捉えた学校紹介動画作成した。	A	昨年度同様、生徒が学校紹介動画を作成し、本校の楽しさが伝わる動画作成され好評であった。動画は、体験入学や中学校訪問時の学校紹介で使用し、校内のデジタルサイネージで来校者向けに流した。
		ホームページの毎日更新。	12/26 現在 更新数 267 件 0.99 件/日  昨年度同時期 更新数 210 件 0.80 件/日	A	昨年度から評価が向上した。昨年度は、HPの更新システムのリニューアルがあり操作習熟の課題があったが、今年度は操作技術の習熟が進み、更新件数が伸びた。来年度も更新ペース維持に努める。
		体験入学や広報誌等が高校選びの参考になったと答える来校者 95%以上。	答えた 来校者 98.7%	A	中学生一日体験入学等では多くの保護者、中学生の参加していただき、その上で体験入学の満足度や本校の紹介等で良好な評価を得ることができた。
		部活動や個人活動を通じて地域行事等に参加した生徒 70%以上（再掲）	答えた 生徒 61.8%	C	今年度からの新規項目である。部活動だけではなく、地域や社会に対する貢献活動、自己研鑽のための校外研修への参加を促したが、目標達成には及ばなかった。来年度は、さらなる声掛けや情報提供を行う。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ		生徒がおおむね 19:30 には下校している。	時期にはよるが、概ね下校はできている。	B	運動部や吹奏楽部生徒は、IH 等の大きな大会の前には下校時刻を超えて活動をしていることはあった。その他の生徒や部活動の活動閑散期では、概ね下校時刻は達成できている。
		すべての教職員がおおむね 20:00 までに退勤する。	全ての教職員が退勤とはなっていない。	C	20:00 時点で、職員の 15% 程度が時間外在校をしている。ワーク・ライフバランスの啓発とともに業務の平準化を進め、退勤時刻の達成を実現していくように努める。
		「おおむね週 1 回は定時に退勤できた」教職員 80% 以上	答えた 教 員 46.3%	C	著しく達成状況が低い項目であるため、抜本的な対策を検討する必要がある。
		適切な情報共有が図られている。	答えた 教 員 77.8%	B	定期的な学年、分掌会議等は行われていたが、業務に追われ、会議時間確保の課題を指摘する声が多かった。適切な情報共有時間確保の方法を検討する。
		分掌の業務を「無くす・減らす・変える」の視点で見直す機会を年 2 回以上設ける。	すべての分掌、学年で設け、実施している。	A	常に、分掌会議、学年会議において、形骸化した業務の削減、業務執行手順の簡略化に努めている。
		「業務の負担感・多忙感が改善された」教職員 50%	答えた 教 員 53.7%	A	昨年度に比べ、業務の負担感・多忙感が改善されたと半数以上の職員が実感をしているが、一方で、定時退勤の達成状況の低さを鑑みると、継続して業務削減・平準化を推進する必要がある。
		次年度の事務業務集中化を見据え、事務職員の校務運営参画を具体化する。	校務運営参画の具体化は検討中である。	B	事務業務集中化先行実施校の情報収集に努め、校務運営参画の立案はした。一方で先行実施校から事務業務集中化に伴う多くの問題が指摘されており、実施の具体化には至っていない。
		校務運営に具体的に参画したと答える事務職員 100%。	答えた 事務職員 100%	A	昨年度に引き続き、各種インフラの使用料金等が高騰する中、事務職員の視点から教育活動に大きな影響を与えない中での経費節減、業務改革を促進した。今後も厳しい予算状況が続くため、校務運営に積極的に参加をする中で、教職員の業務効率化、費用削減を促していく。